

学校教育のありがたさ



岡崎市教育委員会

委員 千野 智子 氏

コロナ禍における生活も三年目に入り、教育に関わる者として、そして中三と小三の子をもつ親として、今年こそは普通の生活が戻ることを願っています。

思えば私たちの世代は、すでに先進国となっていた豊かな日本に生まれ、とても自由な環境で育ちました。「二十一世紀は将来の変化を予測することが困難な時代」と言われても、どこか楽観的な自分がいました。自由や豊かさが当たり前すぎて、そのありがたさを本当には理解していません。

二〇一九年度末、新型コロナウィルス感染症の感染拡大により、外出を控える生活が始まりました。突然、学校が臨時休業に入り、公園の遊具にも立ち入り禁止テープが巻かれ、子供たちは遊びも交流も制限されま



した。そして、新年度を迎えても始まらなかった学校生活。失ってはじめて、学校教育のありがたさを実感する機会となりました。学校があるからこそ、保たれる子供たちの生活リズム。学校教育に代わる家庭学習を試みる中で知った、様々な教科をバランス良く学ぶ時間割の良さ。そして、子供たちが学校に行ってくれるからこそ、親も安心して労働することができるといふ「あたりまえのこと」を再認識することになりました。長い歴史の中で培われた学校

教育は、とても洗練されており、それは子供たちのためのみならず、社会にとっても不可欠なしくみであることを、多くの親が実感しました。今まさに人類は、世界中の人々が協力し合い、大人も子供も知恵を絞って日常を取り戻す努力が続いています。「学校教育が失われた特殊な時間」と「世界的な課題を解決する努力」を経験した子供たちが、その貴重な体験を活かして、より良い未来を築くことを祈っています。

(ちの ともこ)

教育随想



月報
岡崎の教育

令和4年4月1日
4月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

| | |
|------------------------|---|
| 教育随想…………… | 1 |
| 岡崎市教育委員会 委員 千野 智子 氏 | |
| この人に聞く…………… | 2 |
| 老舗豆腐店 店主 原田 学喜 氏 | |
| 羅針盤…………… | 2 |
| 城北中学校 校長 中野渡善樹 | |
| ふれあい…………… | 3 |
| 六ツ美北部小学校 教諭 中野 翔太 | |
| 特集…………… | 4 |
| 令和4年度 岡崎の教育 | |
| お知らせ…………… | 6 |
| フォト・ヒストリー… | 8 |
| 最後の木造校舎(平成6年) | |
| この本を…………… | 8 |



豆腐一筋、味と意思をつなぐ

老舗豆腐店

店主 原田 学喜氏

市内で八十年以上続く老舗豆腐店の店主。豆腐作り一筋、四十五年の職人である。大豆本来の味を大切にされた寄せ豆腐は、一般的な豆腐より糖度が高く、知る人ぞ知る評判のお店だった。しかし、二〇二〇年八月に火事に見舞われ、お店が全焼。跡継ぎがおらず、一度はその歴史に幕を下ろした。その後、日本料理店の西田氏の声かけやクラウドファンディングで全国から支援を受け、日本料理店の敷地に店を再開した。

—豆腐の作り方はどのように学んだのでしょうか—

豆腐作りの技は門外不出です。僕も生まれたころから父親の姿を見ていましたから、自然と身に付いたのだと思います。中学生の頃には、朝、父親にたたき起こされて、「豆腐を仕込んでから学校に行っていました」。

今は、製造の工程もほとんどが機械化されています。でも、僕は全部の工程に人の手をかけます。豆の種類や季節によって、「豆のもつ力」が違います。豆の様子を見て、にがりの量をグラム増やすとか、水の温度を一度下げるとか、微妙な調整をします。こればかりは、機械ではできません。人の手を入れたいとおもしろい豆腐はできないと思っています。だから、若い衆には、「豆腐の声を聞け」とよく言いますよ。僕にも聞こえないんですけどね。

—八十年以上続くお店を畳むことためらいはありませんでしたか—

店が全焼したとき、廃業しようと思った。僕に弟がいたのなら、続けようと思ったのかもしれない。しばらくして、魚信の西田社長から、「工房を建てるから豆腐を作ってくれ」と誘われました。自分の培ってきた豆腐作りを後世に残したいという気持ちはありました。しかし、どう考えても、採算が合わないわけです。迷惑は掛けたくなかったので、断るために、「弟子を付けてくれたらやるわ」と言ったら、西田社長が「弟子を付ける」と言うのです。僕も、言った言葉は呑み込めませんからね。

—お店が再開したとき、どのような思いでしたか—

工房で、前掛けをつけたときはうれしかったです。自分の居場所に戻ってきたと思いました。豆腐屋が天職だとはそれまで思っていないんですけど、やはり、「これが自分の

天職なんだ」と思いました。続けることが、いちばん難しいことです。だからこそ、悩みながら、一途に続けることで天職になるのだと思います。

—豆腐作りを再開して、原田さんの気持ちに変化はありましたか—

今はただ、自分の培ってきた豆腐作りを伝えたいと思っています。そのためには、全国の人に食べてもらって、知ってもらわなければいけません。「FacebookやYouTubeが有効かな」と思って、一年位前から始めました。この前も岩手県まで教えに行ってきたところです。求められれば、どこへでも教えに行きたいです。伝えたいことはいっぱいありますから。

—最後に、これからの目標を教えてください—

僕の目の黒いうちは、豆腐を作り続けます。そして、やっぱり、職人ですから、みんなにのびのびと言ってもらえる豆腐を作りたいですね。今でも失敗することもあるし、悩むこともあります。だから、いつもお客さんに「僕の豆腐は日本で二番目においしいよ」と言っています。だって、一番だと思えばそこで精進しなくなってしまうから。常に一番を目指したいですね。



氏名 はらだ さとし
生年月日 昭和三十三年
一月十五日
住所 岡崎市鴨田町



体育の見方・考え方から

城北中学校

校長 中野渡 善樹

新学習指導要領で「見方・考え方」の視点が示された。体育科において、従来からねらいとしている、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する観点(いわゆる生涯スポーツ)から、その「見方・考え方」を「自分とスポーツとの多様な関わり方」と関連付けることと捉えたい。それを明確にするためには、小学校から高等学校における発達段階のまとまりを踏まえ、系統性を意識した指導が必要となる。

その十二年間のまとまりは、小学校一年生から小学校四年生は、「①運動の基礎を培う時期」、小学校五年生から中学校二年生は、「②多くの領域の学習を経験する時期」、中学三年生から高校三年生は、「③卒業後もスポーツに多様な形で関わるができるようにする時期」となる。小学校から中学校、中学校から



認め合える教室に

六ツ美北部小学校

教諭 中野 翔太

「ぼくは答えが合っているか不安で、失敗するのが怖くなっちゃうから、手を挙げたいけれど、なかなか挙げられない。」

五年生のAさんは、面談をしたとき、私にこう話した。

Aさんは、学習に対して受け身になることが多く、失敗を恐れてしまい、自信をもって発言したり考えを伝えたりすることができなかつた。しかし、Aさんは友達思いで、誰とも関わることができ、級友からも慕われている。そこで、学習においても仲間と関わり合いながら学ぶ機会を増やすことで、意欲と自信をもたせることができなかつたかと考えた。

Aさんは、家庭の事情で学校に行きたくても休まざるを得ないことがしばしばあった。「Aさんが元気ならオンラインで授業に参加することもできるよ」と提案し、数時間の授

業をオンラインで繋いでみた。翌日登校したAさんは、「家でもみんなと授業ができてよかった」とうれしそうに話し、改めてみんなと関わり合いながら学ぶ喜びを感じることもできたようであった。

二期期の初め、分散登校とオンラインのハイブリット授業となった。学級全体で意見交換ができる授業が大切であると考え、家庭と学校をつないでチーム学習を行った。Aさんは、みんなと学び合い、関わることでできる喜びを感じつつも、学校にいる自分がチームの意見をまとめて発表するという役割に不安をもっていた。私は学校にいるAさんに対し、「前のときはBさんがAさんの意見をみんなに伝えてくれたよね。今度は、Aさんが伝えてね」と声をかけた。小さく頷いたAさんに、「任せたいよ」と肩をたたいた。

チーム学習が始まるとAさんは仲間の発言を聞き、「次は自分が話すよ。Bさんと同じで」と考えを伝え始めた。Aさんの考えたことに對し、「確かにそれもいいね」、「私もAさんの考えに賛成で……」とチームの仲間から反応が返ってきた。Aさんはうれしそうに表情を見せ、頷きながらホワイトボードにチームの考えをまとめ、書き留めていった。チームで考えたことをみんなにも伝えたいという思いから、授業後には

「もっと話し合いたかった」とAさんは漏らした。「その気持ちが大切。それがAさんの大きな成長だよ」と私が伝えると、少し照れた表情を浮かべながらも力強く頷いた。

待ちに待った全員登校。Aさんに、「この前の気持ちを大切に、自分から挑戦してみよう」と伝えた。すると算数の授業でAさんは発言した。Aさんの発言をきっかけに、「僕もAさんの考えに似ている」とも次々に発言が繋がりが、授業が深まりをみせた。ちらりとAさんを見ると、少し照れたような、けれども、どこか誇らしげな表情をしていた。

Aさんを成長させたのは、どのような自分でも受け止めてくれる仲間が存在である。私は、一人一人を受け入れ、認めることができる教室を作ることが大切だと改めて感じた。

次の問

いに対し
ても手を
挙げるA
さんの姿
があった。
その右手
は指先ま
でぴんと
伸びてい
た。



高等学校への接続も意識したい。

①では、②の各領域につながるあらゆる動きを経験させたい。そのためには、子供が熱中できる場を設定し、「できた」という成功体験をいかに増やすことができるかが重要になる。②では、各領域におけるスポーツの特性を十分に味わうことができるとともに、そのためには、子供の主体性を生かしながら系統的に技能を習得させ、より高い次元の特性を味わわせたい。子供の実態やスポーツの特性に合わせた指導のバランスが重要になる。③では、「する、みる、支える、知る」など、それまでのスポーツの経験から、その子供なりの関わり方を身につけさせた。そのためには、子供の志向に合わせた多様な学び方の場が必要となる。

昨年の十二月に全国体力テストの結果が、スポーツ庁から公表された。それを受けた「小中学生の体力、コロナで低下」「男子合計点 過去最低」などの報道が目を引く。これまでに岡崎市は、子供の体力、生涯スポーツの観点から考えたとき、教師の高い指導力と熱意による運動部活動や体育的行事に支えられていた部分が大きい。しかし、その在り方が見直されようとしている。体育科の授業の役割がさらに重要になる。改めて肝に銘じたい。



令和4年度 岡崎の教育

▲ 仲間と共に主体的な追究活動に挑む（翔南中）

岡崎の教育が目指すもの

未来を拓く子どもたちを育む教育は、夢見るもので、希望に満ちたものであり、明日に期待するものでなくてはならない。

岡崎の人々の心を貫く教育の流れは、香り高い文化の華を咲かせ、豊かな精神の土壌を培ってきた。そこには、目の前の子どもに寄り添い、子どもの姿から授業研究を重ね、自らの指導性や専門性、人間性を高めるべく努力してきた岡崎の教師の姿があった。この姿こそが岡崎の教育の不易であり、本質でもある。その魂は、脈々と受け継がれ、岡崎の教育の伝統となっている。

本市が令和三年に策定した、「岡崎市学校教育等推進計画」の基本理念は、「未来を拓き 豊かに生きる力をもつ子どもの育成」―自立・共生・創造を目指して―である。そして、その実現に向けた基本目標を、①未来を生きる資質・能力を育成する魅力ある教育の推進 ②子どもの多様性や特性を認め、可能性を伸ばす教育の推進 ③岡崎の人・もの・ことを生かした特色ある教育の推進 ④教職員が生き生きと働くことができる働き方改革の推進 ⑤持続発展可能な教育を実現する学校教育環境の整備 ⑥家庭、地域、学校との連携・協働の推進としている。

令和四年度も、「学び方改革」、「働き方改革」、「教育のDX化」を大きな柱に据え、令和の時代の新しい岡崎の教育を構築すべく、挑戦と創造の心を大切に取り組んでいく。そして、未来を拓き、次世代を生きる子どもたちの資質能力を育てていきたいものである。

岡崎の教育が大切にしてきたもの

教育の目的は、教育基本法第一条にある「人格の完成」を目指すことにある。そして、学校教育に求められているものは、子どもが人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成すること、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。その原点には教師の「子どもの幸せを願う強い思い」と「人間形成への情熱」がなければならぬ。

各学校においては、基礎的、基本的な内容を重視しつつ、物事の本質に迫る学習活動を通して、学ぶことの価値を実感させることが重要である。また、個に応じた指導を充実するなかで、公共の精神を尊び、誰ひとり取り残すことなく、子どもの個性を認め、伸ばす教育を展開することも大切である。そのため、学校や地域の実態に応じて、「自立」「共生」「創造」を核に、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成することが必要である。それに基づく教育活動を通して、地域を愛し、地域を誇りに思い、子どもが自他を敬愛し、多様性を認め合い、喜んで通うことのできる、安全で魅力ある学校づくりを目指したいものである。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を築き、家庭と地域と学校とが協働し、信頼される教育の創造に向けて努力していく。

特に指導の重点を次の三点とする。
○学ぶ楽しさを実感し、深く考え、学び続けるための「確かな学力」を育



▲ プログラミング的思考の育成 (羽根小)



▲ スーパーサエティキッズの育成 (広幡小)

む教育の推進
 ○命の尊さやふるさとの大切さを自覚し、共に生きるための「豊かな心」を育む教育の推進
 ○体を動かす楽しさを体感し、たくましく生きるための「健やかな体」を育む教育の推進

時代の先頭を走る岡崎の教育

岡崎の教育は、これまでも、その時代の要請に応え、独自の教育活動を推進してきた。これまでの「岡崎の教育」を継承しながら、社会や時代のニーズ、また、岡崎の現状を踏まえ、岡崎の子どもたちのために、新たな取り組み展開していく。

国が推進するSDGs（持続可能な開発目標）の四番目の目標は、「質の高い教育をみんなに」である。その理念を受け、本市では、多様な子どもたちを誰ひとり取り残すことなく、すべての子どもたちの可能性を引き出す、新しい学びを目指す。そのためには、「学び方改革」が必要である。その基盤が、ICTと四人のチームによる、チーム学習の融合である。

令和元年度に完了した、岡崎版GIGAスクール構想の「児童生徒一人一台のタブレット端末の配備」と全小中学校への大容量高速ネットワーク整備は、「学び方改革」をさらに進化させるものである。外部研究機関等と結んだオンライン授業や学校と家庭を結んだりモータ授業は、時間、場所に縛られることなく学びの幅を広げることが可能となった。個別最適化学習のための手段であるスクールタクトなど

の活用によって、教師は子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行い、授業の質を高めていく。さらに、全中学校に導入する電子黒板の活用を含め、デジタルとリアルハイブリッドをどう進めていくか、そのベストミックスを実現する授業を目指して、教育実践を重ねていく。

また、主体的・対話的で深い学びの実現のため、一斉授業からの脱却を目指し、四人によるチーム学習をさらに進め、誰ひとり取り残すことのない、令和時代の全員参加型の授業を実践、研究していく。

岡崎の子どもたちが、予測できない社会変化に主体的に向き合い、未来の創り手となる力をも身につけていくことが求められる。これまで培ってきた岡崎の教育実践を礎として、新たな時代を生き抜く子どもたちの育成を目指して、弛まぬ授業改善と教育研究を実現していく。

重点努力事項

今、私たちが取り組むべき事柄として以下の四つを挙げる。

- ① 学び方改革の推進
 - ・ 子どもの多様性に応じた、誰ひとり取り残さない、個別最適化された教育を研究、推進する。
 - ・ 完全実施された新学習指導要領を着実に実施する。
 - ・ 一斉授業から脱却し、チーム学習を中心とした、共生の心を育む教育活動を推進する。
- ② 子どもの可能性を伸ばす教育の推進

- ・ きめ細やかな教育を推進し、温かい学校づくりの実現を目指す。
- ・ ストップ・ザ・いじめアクションプランの活用を充実し、いじめの未然防止との確な対応を徹底する。
- ・ 多様性を認める校内フリースクールを充実させ、長期欠席者等、すべての子どもたちの学校生活を保障する。
- ・ 外国人児童生徒への指導・支援を充実する。

- ・ WEB版ハイパーQを年二回実施し、子どもたちの特性に応じた支援を充実する。

- ③ 教育の情報化の推進
 - ・ プログラミング学習を継続実践し、さらなる充実を図る。
 - ・ 教育のDX化を推進し、「岡崎版GIGAスクール構想」の運用支援を充実なものとする。
 - ・ 全中学校に配備する電子黒板を活用した、授業実践の研究を進める。

- ④ 教職員の働き方改革の推進と教職員の育成
 - ・ 新しい学校デザインの研究を押し進め、日課や部活動の在り方について検証していく。
 - ・ 教職員の研修を充実させ、「新たな教師の学び」の実現を目指す。
 - ・ 新たな特色ある学校づくりを目指すし、「未来型の教育」「岡崎版コミュニティ・スクール」を研究する。
 - ・ OKAZAKIスマートワークを積極的に推進するとともに、教職員一人一人が時間外在校等時間を把握し、その業務内容を十分に認識して、よりよい働き方をマネジメントする。



●教育最新情報

◆岡崎市教育委員会委員の変更

令和四年度、岡崎市教育委員会は、教育長職務代理者を小出義信氏が務める。また委員は、岡田京子氏、千野智子氏、上原三十三氏の三名が務める。

◆校内フリースクール「F組」増設

令和三年度、岡崎市内では中学校八校（甲山中、美川中、福岡中、東海中、岩津中、矢作中、北中、六ツ美北中）に校内フリースクール「F組」が開設されている。

令和四年度は、さらに中学校六校（南中、葵中、竜海中、城北中、矢作北中、新香山中）で「F組」を開設し、計十四校となる。今後も子供たちの多様性を認め「社会的自立」を目指し、一人一人に寄り添った支援を行っていく。

●教育関係機関だより

◆岡崎市総合学習センター

○教育図書室
学習指導案の閲覧、図書資料の貸出し、学芸会等のDVD資料の視聴ができる。

(2)教育アドバイザー
教育に関する様々なことについて相談ができる。

(3)学校運営アドバイザー
学校運営についての相談ができる。

◆教育相談センター

教育相談部門・福祉的支援部門と通所・登校支援部門がある。
(1)教育相談部門には、「そよかぜ相談室」がある。

○そよかぜ相談室

就学支援・特別支援教育、いじめや長期欠席等に関する支援をしている。相談をする場合は、電話予約が必要となる。その後、通所し、臨床心理士や相談員と相談する。また発達障がい等の専門家（大学教授等）が巡回相談を行っている。

(2)通所・登校支援部門には、岡崎市校外フリースクール「ハートピア岡崎」等がある。

○ハートピア岡崎(電美・上地)

長期欠席や、その傾向のある子供が学校への復帰や社会的自立を目指して通所し、指導員やハートピア専属の臨床心理士による支援を受ける。通所については、学校を通して手続きを進める。

(3)福祉的支援部門にはスクールソーシャルワーカーを配置しており、令和四年度は、四名増員し、計十一名となる。

○スクールソーシャルワーカー

子供が置かれている環境や、抱えている課題を踏まえ、関係機関との連携・調整や支援を行う。福祉や教育に精通した社会

福祉士や教員OBが対応する。
◆日本語初期指導教室
(プレクラス「希望」)

岡崎市内の小中学校に編入学、転入学して行く日本語教育を必要とする児童生徒は増加傾向にある。それに伴い小学生四年生まで・中学生を対象とした日本語初期指導教室「プレクラス」を南中学校内に開設している。

プレクラスでは、学校生活になかなか馴染めない日本語指導が必要な児童生徒が、安心して日本の学校に通うことができるように、初期段階の日本語の習得や日本文化への適応を図ることを目指している。

●表彰関係

◆第33回読書感想画中央コンクール

○小学校低学年の部
文部科学大臣賞
連尺小 濱 咲那依

◆第59回全国中学校スキー大会

○女子回転の部
出場 葵中 鈴木 優和
出場 竜海中 田中愛佳理

○女子大回転の部

出場 竜海中 田中愛佳理

◆第69回こども音楽コンクール

文部科学大臣賞選考会
○小学校合唱部門
出場 (中部ブロック代表) 三島小

◆中日個人重奏コンテスト愛知県大会

○重奏の部 (管弦打七重奏) 矢作中
○重奏の部 (打楽器三重奏) 北中
金賞

○重奏の部 (打楽器五重奏) 竜海中
○重奏の部 (金管八重奏) 矢作中

○個人の部 (クラリネット) 羽中 咲弥

○個人の部 (コントラバス) 杉田ゆかり

○個人の部 (ホルン) 内田 理湖

○個人の部 (ホルン) 山本 結月

◆第67回青少年読書感想文コンクール

○小学校高学年の部
入選 男川小 土井 禅駿

◆第58回全国児童才能開発コンテスト

○作文部門
学校奨励賞 三島小
全国道府県教育長協議会会長賞

六名小 伊藤 心彩

竜美丘小 加藤 美虹

細川小 長迫 杏

城南小 大谷 萌愛

全国連合小学校長会会長賞

広幡小 野々山 暁成

広幡小 中島 佳子

矢作北小 小林 大芽

日本PTA全国協議会会長賞

六名小 矢野 悠希

細川小 塚本 望逸

才能開発教育研究財団理事長賞

◆第8回全国小・中学生障がい福祉ふれあい作文コンクール
入選 東海中 鈴木 瑳久良

◆ポーカーイド教育版作曲コンテストポカ甲子園2021
○小学校部門
最優秀賞 大門小 町野 菜瑠

◆第67回読書感想文愛知県コンクール
愛知県知事賞 水谷 美稀

◆福祉体験作文コンクール
男川小 土井 禅駿

○作文部門
入選 常磐南小 牛尾 穂乃香

◆第32回MOA美術館全国児童作品展
○絵画部門
入選 矢作北小 除本 葉瑠

◆令和3年度明るい選挙啓発ポスター
入選 羽根小 大城 希咲

◆令和3年度「家庭の日」県民運動啓発ポスター
○児童(小学生)の部
入選 竜美丘小 加藤 理織

○生徒(中学生)の部
佳作 竜南中 高須 茉弘

◆第49回人権を理解する作品コンクール
○標語の部
佳作 美合小 成瀬 鳴名子

佳作 三島小 今井 晶大

佳作 藤川小 ムライレベカ

○書道の部
入選 美合小 鎌田 未奈萌

入選 美合小 市川 柚芽

佳作 美合小 牛田 圭祐

佳作 竜海中 判治 徹哉

◆いじめ防止標語コンテスト
PTA推薦賞 戸嶋 あずさ

緑丘小

入選 赤尾 好夫 記念賞 松平 萌花

○小学生の部 (詩部門) 広幡小

○小学生の部 学校奨励賞

◆第28回新聞切り抜きコンクール
○小学生の部
優秀賞
三島小 北野 彩緒

●期待の新任教員

令和四年度岡崎市小中学校新規採用教員は一二八名（養護教諭を含む）である。

なお、新任教員の各学校への配置は、次のとおりである。

◆新規採用教員

梅園小学校 豊田 凌士
今井 千扇
磯田ひかる
石川 英里
吉村 茉夕
成瀬 祥樹
中野 紗希
西川 翔也
竹市 仁美
前田 拓海
田尻 悠珠
森田 萌衣
杉本 成弘
杉浦 美音
紀平 梓実
田中 有紗
上田宗次郎
西村 春花
山本 紗生
佐々木花純
康本 健吾
黒柳 萌子
河合紗里奈
北山 貴一
丹羽 脩
木村 優花
安藤 義孝
山際 恵莉

連尺小学校 横田 舞
廣幡小学校 西依 優奈
井田小学校 野溝 真由
佐藤 雄太
長坂総一郎
青木 開人
岩見 果朋
中根 総子
渡邊 乃恵
萩野 清史
野村くるみ
稲垣知亜希
大曲 看菜
岩本 力也
中根 結香
島田 千絵
木村 陽南
園田 龍
中村さくら
増田 榛菜
山口 真実
飯田 琴音
安藤 春稀
長嶺 景太
松木 大悟
中村 真緒
余吾 美咲
兼岩 奈央
脇田 日向
脇田 晃輔
宮本 詩織
北原 雄大
三島 有紀
高田 憲信
浅井 彩友
霜出 憲信
山本 まみ
山本 美穂

矢作北小学校 矢作西小学校
矢作南小学校
六ツ美中部小学校
六ツ美北部小学校
六ツ美南部小学校
城南小学校
上地小学校
小豆坂小学校
北野小学校
六ツ美西部小学校
形埜小学校
下山小学校
甲山中学校
美川中学校
南中学校
竜海中学校

細江 大地
土井咲也花
稲垣 啓斗
矢藤 桃花
鈴木 千乃
熊崎 舞
兼子 美和
福永萌々花
伊奈 柚季
波戸村 弥月
宮内明日花
天野 愛莉
大庭あずさ
杉浦 由菜
浅井 俊博
小島安也音
鈴木 晴久
蓮沼 優花
谷田川 拓真
鬼頭 希
榎本 隼大
石黒 真菜
古田安祐美
康本 慎吾
宮崎 優
児玉ほのか
中村かんな
杉浦 なぎ
土田 裕貴
大野 真緩
藤本あゆみ
新宮 聖菜
杉浦 康平
山本 将司
因田佳乃子
青木 結唯
小田 琴音
今枝 亮太
宮國 椋平
脇田 貴斗

●期待の新任事務職員

令和四年度の新任事務職員は九名で、配置は次の通りである。

羽根小学校 丸山 萌絵
井田小学校 伊藤 真那
矢作北小学校 加藤 拓実
大門小学校 成田あずみ
上地小学校 栗田 真侑
葵中学校 白木 杏奈
矢作中学校 武藤 晃勢
矢作北中学校 兼松 寛明
翔南中学校 木學理 彩子

後藤 優果
石原康太郎
片岡 聡子
桂 泰輔
松木 恵子
犬塚 彩奈
鷲野 祐一
茂木 瑞恵
倉富 由佳
野田 啓太
千葉 春奈
小島 綾夏
古谷 沙和
山根智恵子
林 美柚紀
鈴木 綾華
小嶋 涼太
磯部 翔
大橋 龍人



教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

| 番号 | 相談窓口 | 電話番号 | 相談受付日時 |
|----|-------------------|--------------|--|
| 1 | 岡崎市教職員相談ダイヤル | 0564-64-3322 | 火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30 |
| 2 | 岡崎市こころのホットライン | 0564-64-7830 | 月曜日～金曜日 13:00～20:00 |
| 3 | 愛知県総合教育センター教育相談 | 0561-38-2217 | 月曜日～金曜日 9:00～17:00 |
| 4 | あいちこころのホットライン 365 | 052-951-2881 | 年中無休 9:00～16:30 |
| 5 | 名古屋いのちの電話 | 052-931-4343 | 年中無休 24時間 |

最後の木造校舎 (平成6年)

写真提供：福岡中学校

校庭に整然と並ぶ卒業生。三年間あたたかく子供たちを見守った学舎が、より一層大きく見える。卒業アルバムの一ページである。

昭和二十二年、小学校の校舎を間借りして、福岡中学校が開校した。三十年には木造二階建ての東校舎(写真)が竣工した。昭和五十九年に校舎建設促進委員会を設立した。建設場所確保のために、何軒もの地主から土地をいただいだ。身を切る思いで「子供たちのために」と土地を譲ってくださった。平成七年、新校舎が完成し、学区民長年の夢が結実した。

昔から子供たちを見守ってきた木造校舎は姿を消した。今では、冷暖房完備の鉄筋校舎が立ち並ぶ。ただ、校舎は単なる学びの場ではなく、学区民の願いの象徴としてあることを肝に銘じたい。



・題 字
 ・タイトルバック 教育長 安藤直哉
 ・各タイトル 北 中 堀口宏章
 ・カ ッ ト ル 細川小 吉田真由子
 六ツ美北中 中根勅子

登下校する子供たちの姿が目にとまる。希望に胸を膨らませ張り切る子、新しく出会った友達と笑顔でおしゃべりする子、見える景色はさまざまだ。学舎に鳥はさえずり、春の光が降り注ぐ。すべての子にとって実り多い一年であるようにと強く願う。

と ホ

卯 ツ



▲入学式、希望の鐘を鳴らす子供(井田小)

本来の大豆がもっている甘さを引き出し、豆腐を作り続ける原田さん。「みんなに優しい」と言ってもらえる豆腐」を、四十五年間追い求める精神力と持続力に頭が下がる。そのパワーは衰えるどころか、さらに強くなっている。取材した私たちに元気を与えてもらった。

繋がる喜び、伝え合う楽しさ。学校は、仲間と関わり合いながら、学びを深め、広げることが出来る素敵な場所である。新しい学級が始まった。子供の強い眼差しは、意欲と自信の表れだ。自分の思いを伝え、仲間の思いを聴き、互いに高め合える学級でありたい。



*自律する子の育て方 工藤 勇一・青砥 瑞人
SBクリエイティブ ￥990

心に残った一文 「否定されない環境」を作る

本書には工藤勇一氏の「麹町(中学校)研究」を、最新の脳科学的視点から問い直し、学校教育への提言が示してある。

チームが機能するには「心理的安全性」が重要で、その確保には「否定されない環境」を作ることが不可欠、とあった。

前頭前皮質は「否定されない」ことで、のびのびと機能を発揮するそうだ。「チーム学習」の、そして機能的な「チーム学校」の成立にも不可欠であると確信した。

心理的安全性は自己決定力を高める。「否定されない」安心感は、自律・自立する子を育てる。出会いの一言から実践したい。

- *GIGA スクール・マネジメント 佐藤 明彦 時事通信社 ￥1,600
 - *心理学BEST100 内藤 誼人 綜合法令出版 ￥1,500
 - *実践!安心登山 洞井 孝雄 東方出版 ￥1,500
- 六ツ美北部小学校 高橋 誠